

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ① 自分の考えや思いを自分の言葉で表現する力を伸ばす指導の充実
- ② 学校と家庭との連携による学習習慣の確立

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員
桑原紀子 村岡紀子 稲富しのぶ	校長：林 義勝 教頭：清水浩三 影田博徳 教務主任：近藤勝重 学年主任：三橋延世 橋本光江 小川清晴

校長

林 義勝

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○全般的に落ち着いた態度で、基礎的な問題や課題に意欲的に取り組むことができる。 ●新しい課題については興味・関心をもち、意欲的に取り組むことができるが、反復学習においては、根気強さや意欲が不十分になっていく傾向がある。	・基礎的・基本的な事項について、繰り返し粘り強く取り組み、学習に対する興味・関心・意欲を身につけている。 ・学習を通して習得した知識や技能を、他の学習や生活の場面において活用することができる。	①朝学習のセミナー、自主学習などの提出物をチェックし、継続的に取り組むように指導する。 ②基礎的・基本的な内容の小テストを実施し、合格点に達しなかった生徒には補充学習を実施する。 ③各教科の教員が連携して、相互に意見を交換する。	授業のはじめに本時の目標と流れを提示するとともに、授業のおわりに本時の学習内容を振り返る時間を持つ。	①朝学習のセミナー、自主学習を提出することができていない生徒に関しては、放課後や休み時間を使って仕上げさせた。 ②実施の仕方や回数は各教科に委ねられているが、概ね実施できている。 ③関連性の少ない教科間では、意見交換が十分ではなかった。	授業のおわりに学習内容を振り返る時間を持つことはあまりできていなかった。次年度は、学力の定着を図るために、振り返りの時間を大切にしたい。 また、学年会の場で、各教科の進捗状況を報告し合う回数を増やしていきたい。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習方法がわかっていたり、指示された内容がはっきりしていたりすることに対しては、意欲的に取り組むことができる。 ●答えがわかっているにもかかわらず、自分の考えや思いを表現することが苦手な生徒が多い。	・自分の考えや思いを目的や条件に応じてわかりやすく相手に伝えることができる。 ・課題解決のために資料や情報を効果的に活用することができる。	①授業の中で考えさせる場面や自分の考えや思いを表現させる場面を、あらゆる機会を捉えて設ける。 ②ホワイトボードやICTを効果的に活用させる。	定期テストにおいては、自分の言葉で表現させる問題の出題を、すべての教科で増やす。また生徒がタブレットを使用する際、必要な情報を正しく選び取ることができるよう支援する。	①自分の考えや思いをわかりやすく相手に伝えるような活動を各教科で取り入れた。ただ、表現の仕方が身に付いていない生徒もいる。 ②ネット環境が脆弱なので、タブレット端末が十分に使えなかった。	伝えるために必要な言葉や条件を論理的に組み立てることができるように、繰り返し練習させたい。 ホワイトボードを活用することで、課題の把握がしやすくなった。しかし、ICTの活用に関しては、環境の整備状況にあわせて進めていきたい。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(めざす子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題については、多くの生徒が真面目に根気強く取り組み、提出することができる。 ●家庭学習が十分に定着していない生徒もいる。何をしようかわからない生徒も少なくはない。	・目標をもち、それを達成するための計画を立て、家庭学習に意欲的に取り組むことができる。	①学級担任と各教科担任がそれぞれ課題を出し、家庭学習の充実を図る。 ②生徒自らが作成した学習計画をもとに、テスト勉強に地道に取り組むことを習慣づける。 ③進路を見据えた学習指導を行う。	ホワイトボードに課題を提示して、視覚的に課題の量を把握させることにより、優先順位をつけて取り組ませる。	①課題の優先順位を確認させながら、家庭学習に取り組ませることができた。 ②年間を通してテスト勉強計画表を作成させ、学習習慣の定着を図った。 ③将来を思い描くことで、自己実現のために意欲的に学習に取り組む生徒が増えた。	課題を仕上げるのが難しい生徒には、個にあった課題に変更するなど、柔軟に対応したい。また、課題を分散させ、課題を出す回数を増やすことで、確実に仕上げるができるように支援する。

令和3年度 学力向上ロードマップ

